

豊平河畔 だより

北海道社会保険病院



「なかのしま健康フェア」
平成25年11月13日(水)・14日(木)開催
北海道社会保険病院グリーンモールにて

病院理念

患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指します。

基本方針

- 1.患者さんの権利を尊重し、人間愛を基調とした医療に努めます。
- 2.安全で安心できる医療に努めます。
- 3.説明と同意を基本とする医療に努めます。
- 4.地域の医療・福祉施設との連携を推進します。
- 5.地域の健康増進を目指し、保健予防活動を推進します。

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



病院長 岸 不盡彌

昨年北海道社会保険病院は創立60周年を迎えることができました。昭和28年北海道社会保険中央病院として開設され、平成13年病院新築の際に現病院名になりましたが、その大半を社団法人全国社会保険協会連合会の経営指導の下に歩んできました。その間札幌市はじめ地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護老人保健・福祉施設等から多くの支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

今年4月からは、厚生労働省が直接管理運営する独立行政法人地域医療機能推進機構の一病院として再出発することになります。地域で親しまれた名前が消えて、英語表記のJapan Community Health care Organization の頭文字を略称として「JCHO(ジェイコー)北海道病院」となる予定ですが宜しくお願い申し上げます。JCHOの理念である「地域医療、地域包括ケア連携の『要』として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、人々の生活を支える」ことに努力する所存ですが、病院、健康管理センター、老健施設も含め、医療・予防・介護を担う当院の姿は変わることはありません。昨年は地域医療支援病院の承認を受けることができましたので、登録医の諸先生方と一緒に緊密な連携を取り、患者さんや地域からの要望に応えられるよう安全で安心できる質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと思います。

ところで、国は社会保障制度改革推進法に基づき、超高齢化の進行、家族・地域の変容、非正規労働者の増加など雇用環境の変化などに対応した「21世紀(2025年)日本モデル」への転換を提案し、全世代型の社会保障や、すべての世代が年齢ではなく負担能力に応じて負担し、支えあう仕組みの構築を求めています。この4月には診療報酬の改定もあり、国民や医療機関の負担が増えしていく構図が見えますが、私たちはあくまで患者さん、利用者の皆さんを中心に据えて医療、介護、保健予防活動を続けていきたいと考えています。昨年末の世相を反映する漢字は「輪」でしたが、人と人との輪が大事なことを全国の人が評価したことが

大きいと思います。病院もまた患者と職員の信頼という輪、病院と地域という連携の輪、職員同士の協力という輪が重要だと思います。輪を広げ、輪を強くし、輪を太くしていく一年であることを期待しています。

新しい年を迎え、地域連携相談室を中心に、患者・利用者のために地域の先生方と協力して医療を担っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。





Dr.からの ワンポイントアドバイス

市中肺炎について

呼吸器センター呼吸器内科 原田 敏之



市中肺炎とは

肺炎とは、何らかの病原微生物が、肺実質に侵入して、急性の、感染性の、炎症を來した場合で、病院外で日常生活をしていた人に発症した肺炎を市中肺炎といいます。

病原微生物により、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、非定型肺炎(マイコプラズマ、クラミジア、真菌など)、に分類されます。

現在では、悪性新生物(がん)、心疾患、について、肺炎は我が国での死因の第3位になっています。

症状

咳、痰、熱、胸痛などが認められることが多いですが、高齢者などでは、これらの症状を認めず、倦怠感、食欲不振などをきっかけに受診、診断されることもありますので、注意が必要です。

重症度の分類

年齢(男性70歳以上、女性75歳以上)、脱水、低酸素状態、意識障害、血圧低下(収縮期90mmHg以下)、の5項目を指標として、重症度を分類し、治療場所を考慮します。

いずれも満たさないものを軽症(外来治療)、1つまたは2つを有するものを中等症(外来または入院治療)、3つを有するものを重症(入院治療)、4つまたは5つを有するものを超重症(集中治療室入院)、に分類します。

治療

基礎疾患(元々の持病)の有無、年齢、重症度、を考慮し、外来治療では内服抗菌薬、入院治療では注射抗菌薬、を主体に治療し、通常1~2週間の治療で、改善します。

慢性の病気をお持ちの方や、症状出現から医療機関受診が遅れました場合には、重症化して生命に危険が及ぶこともありますので、早めの受診が重要です。

予防可能な肺炎もあります

肺炎の原因菌で一番多い肺炎球菌に対するワクチンがあります。

このワクチンを接種することにより、一部の肺炎を予防することができ、一度接種すると5年間有効です。

65歳以上の方、長期療養型病床群や介護施設などに居住されている方、慢性の病気がある方などは、接種が勧められていますので、医療機関にご相談下さい。

column

11

新生児集中ケア認定看護師の活動紹介

新生児集中ケア認定看護師 笠井真由美

新生児集中ケア認定看護師の役割は、急性期にあるハイリスク新生児の身体的・心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、生理学的安定を図り、神経行動学的発達を促すこととされています。

今回は、まだまだ認知度の低い新生児集中ケア分野の紹介をし、私たちのケアへの理解を頂きたく、この度の機会を利用して頂きます。

新生児集中ケア認定看護師のケアの対象となる赤ちゃん

急性期とは病状が落ち着かない時期を指し、ハイリスク新生児とは早産で生まれた赤ちゃんや、正期産であっても病気を抱えた赤ちゃんを指します。このような「急性期のハイリスク新生児」が私たちのケアの対象です。また赤ちゃんを家族の一員として受け入れていくためのサポートも不可欠であるため、家族もケアの対象となります。

ケアの視点

赤ちゃんは病状が悪くなるスピードがとても早く、また自分で苦痛を訴えることができません。よって、修正週数や体重、日齢、疾患、治療、検査データ、心拍数や呼吸数などという多方面から考え、今後の経過を予測し、それらを予防する、あるいは早期発見する視点が不可欠です。なぜなら赤ちゃんの病状悪化は、後遺症に直結するためです。

早産児はやむを得ず子宮内での生活が中断され、子宮の中で体験すべきであった知覚経験が不十分なまま出生します。胎児は子宮壁に手足や頭が当たったり、自分の指をおしゃぶりしたり、へその緒を触って遊んだりすることで、自分を認識していきます。また暗く静かで、羊水にぶかぶか浮かんで過ごした子宮の中から、全てが未熟な状態で生まれてきます。光、音、私たちが不用意に触れること、そして重力すら、早産児にとってはストレスとなります。よって、生まれた後も子宮内の環境に少しでも近づけるようにケアする必要があります。例えば、赤

ちゃんの周りに土手を作つて囲い込み、赤ちゃんが動いた時に土手に触れることができるようになると、子宮内と同じような経験ができます。また早産児は筋肉が未発達であり、重力に負けて手足がだらりとしているので正期産で生まれた赤ちゃんとは違い、正しい姿勢をとることができません。よってハンカチやタオルを折りたたんで、正しい姿勢がとれるようにお手伝いしています。更に、モニターの音や私たちの出す音、眩しすぎる光にもびっくりしてしまうので、静かで直接光が当たらないよう、赤ちゃんの環境を整えるようにしています。これらを総称してディベロップメンタルケアと言います。

ハイリスク新生児を出生した家族は、非常にショックを受けている状態です。お母さんは自身を責め、お父さんはそのような母子を守る新たな役割と仕事との両立をしなければなりません。このような家族には、辛い思いを吐き出す場が必要です。何かアドバイスするのではなく、ただひたすら思いを聴く、そうすることで家族は気持ちの整理がされ、個々のペースで赤ちゃんを受け入れていきます。また、赤ちゃんの病状の回復と共に、皮膚と皮膚が直接触れ合うように抱っこするカンガルーケアを行うことで、家族の傷は癒されていきます。

ハイリスク新生児はNICUという閉鎖された環境で過ごしています。また大人の病気やケアとは全く異なり、メディアに取り上げられることも少なく、多くの方に理解して頂いているとは言えません。医療・ケア自体も発展段階にあります。少しでも多くの方に、ハイリスク新生児と家族に対するケアを知って頂けたのなら幸いです。



✿ 健康教室からソーシャルワーカーのお話です✿

がんのいみへの支援 ～からだ・こころ・くらし～

ソーシャルワーカー 佐藤奈津子

当院は平成25年4月に北海道がん診療連携指定病院の指定を受けました。緩和ケア、がん相談に関する当院の取り組みについてご紹介させていただきます。

● 緩和ケアチームをつくり、がん患者さんがもつ痛みを総合的に緩和できる体制を整えました。

ご存じのように、がん患者さんは4つの痛み（身体的苦痛、心理的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペイン）を持ち、また4つの痛みと不安は複雑に絡み合っていると言われています。患者さんが持つ全人的苦痛（トータルペイン）に対応するため、緩和ケアチームを設置しました。精神科の非常勤医師を含め、医師、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーのチームが、各科からのコンサルテーションを受け活動しています。二人に一人は人生で癌を患う時代です。がん診療と並行して緩和ケアが提供できるよう積極的に取り組んで参ります。

● 地域連携相談室では、がん治療に伴う様々なご相談をうかがっています。

ソーシャルワーカー、がん性疼痛看護認定看護師、退院調整看護師、事務員が役割分担・連携しながら相談対応しております。セカンド・オピニオンの相談、専門病院の情報提供、緩和ケアを提供している医療機関の紹介、在宅ホスピスの相談、生活や経済的な困りごとの相談などを承っています。

医療系のサービスをご利用のかたは看護職が、それ以外のご相談はソーシャルワーカーが担当いたします。入院・外来ともに、早期からのニーズ発見と予防的な支援を心がけ、相談対応をさせていただいております。

健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。



場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏側)

時間 11:30~12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。

外来の待合場所が会場です

整形外科

中央
処置室

会計窓口

会場はこちら

エスカレーター

再来
受付機

正面玄関

緩和ケアチームの活動

緩和ケアチーム専従看護師

がん性疼痛看護認定看護師 兼子 美穂

北海道社会保険病院では平成25年4月より「北海道がん診療連携指定病院」の指定を受け、緩和ケアチームをはじめ様々な活動を広げていく予定であります。今後も引き続きがん患者さん、ご家族、そして地域の皆様のニーズに応えていくため、認定看護師による研修と、患者図書室・サロンの開室についてご紹介させていただきたいと思います。

認定看護師による研修

平成25年12月10日(火)「在宅看護に役立つ専門知識-ストーマケアと糖尿病-」を開催いたしました。当病院に在籍する認定看護師が主体となり、連携の多い訪問看護ステーションの皆様をお招きし、地域で活動する看護職との情報交換と交流をはかりました。



今回は皮膚・排泄ケア認定看護師による「漏れなく安心 ストーマ装具選択ポイント」、糖尿病看護認定看護師による「こんなときどうしたらいいの?インスリン療法のいろは」という2部構成で行いました。訪問看護師の支援を受けてながら療養される地域の生活者は増えており、連携は不可欠となっております。研修では、実際のストーマトラブル事例や最新のインスリン療法などについての紹介もあり、研修終了後にもたくさんの質問やご相談を頂き、盛況に終わることができました。アンケートでは「在宅では材料や費用に限界もあり個々のケースのアセスメント・具体策があつて良かった」「引き続き新しい製品を知りたい」「認知症や高齢者への対応に苦慮している」などのご意見があり、今後も他分野を含めた専門知識について研修のご希望がありました。地域の皆様のご意見・ご要望を参考にしながら、引き続き開催していきたいと考えております。

■当病院に在籍する認定看護分野(平成26年1月現在)

皮膚・排泄ケア

感染管理

がん性疼痛看護

がん化学療法看護

糖尿病看護

集中ケア

新生児集中ケア

患者図書室・サロン

当病院では、患者さん、ご家族など皆様に医療に関する情報を提供できるよう、患者図書室・サロンを設置し2月中旬より開室予定しております。日差しが入る柔らかい雰囲気で、患者さんやご家族がリラックスして過ごせる場所になっております。病気や治療などについて調べ、理解を深めていただくための図書や、がんに関するさまざまなパンフレットを設置する予定です。どうぞご利用ください。

研修のご希望のほか、地域からのケースのご相談についても連携いたします。地域連携相談室までお問い合わせください。これからも、どうぞ宜しくお願ひいたします。

症例検討会のお知らせ

北海道社会保険病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

札幌南部呼吸器懇話会

第36回

日 時:平成26年2月19日(水) 18時30分～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂

リバーサイド消化器懇話会

第36回

日 時:平成26年3月11日(火) 18時30分～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

研修会を実施しました

平成25年度

リバーサイド消化器懇話会(第35回)

日 時:平成25年11月19日(火) 18時30分～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂
参加者:院外14名 院内27名

講 演:『これからの中高年肝疾患治療』
北海道大学大学院医学研究科
耳鼻咽喉科
消化器外科学分野 I
武富 紹信 先生



平成25年度

豊平・清田・南区循環器懇話会(第23回)

日 時:平成25年11月26日(火) 19時00分～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂
参加者:院外24名 院内27名

講 演:『心房細動における最新の話題』
群馬県立心臓血管センター
循環器内科第二部長
内藤 滋人 先生



災害救急指定日

平成26年2月4日(火)・2月23日(日)・3月13日(木)・3月30日(日)

二次救急指定日

循環器・呼吸器系 平成26年2月9日(日)・平成26年3月9日(日)



消化器系 平成26年2月16日(日)・平成26年3月17日(月)

小児系 平成26年2月2日(日)・2月18日(火)
3月12日(水)・3月23日(日)

変更になる場合がございます。当日の新聞等で確認をお願いいたします。

病院名称の変更および新機構移行のお知らせ

平成26年4月より当病院の病院名称は

独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院(仮称) に変わります。

全国の社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の3つの病院グループは、平成26年4月から新しく発足する新機構、独立行政法人地域医療機能推進機構 (Japan Community Health care Organization:JCHO ジェイコー) が直接運営する公設・公営の病院へ移行します。

名称は変わりますが、これまでと同様に患者さんを中心とした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院となるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願ひいたします。

**北海道社会保険病院
地域連携相談室**

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18
TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>
<医療機関専用:地域連携相談室直通>TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005